令和7年第1回大町町議会（定例会）会議録（第2号）						
招集年月日	令和6年3月10日					
招集の場所	大町町議事堂					
開散会日時 及び宣言	開議	令和7年3月12日	午前9時30分	議長	諸石重信	
	延会	令和7年3月12日	午前11時11分	議長	諸石重信	
応（不応）招議員及び出席並びに欠席議員 出席 8名 欠席 0名 凡例 ○ 出席を示す △ 欠席を示す × 不応招を示す ▲ 公務出張を示す	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1	諸石重信	○	5	山下淳也	○
	2	三根和之	○	6	早田康成	○
	3	北沢聡	○	7	三谷英史	○
	4	江口正勝	○	8	藤瀬都子	○
会議録署名議員	8番	藤瀬都子	2番	三根和之		
職務のため議場に出席した者の職氏名	事務局長	坂井清英	書記	高田匡樹		
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	町長	水川一哉	副町長	川原恵		
	会計管理者	井上精一	教育長	尾崎達也		
	総務課長	井原正博	総務課参事	亀川修		
	企画政策課長	藤瀬善徳	町民課長	宮崎貴浩		
	町民課参事	副島徳二郎	子育て・健康課長	前山正生		
	福祉課長	釘本あゆみ	農林建設課長	吉村秀彦		
	教育委員会事務局長	井手勝也				
議事日程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

議 事 日 程 表

▽令和7年3月12日

日程第1 一般質問

1. ふるさと応援寄附金の減額に伴う影響とその対策について (三谷英史議員)
2. 带状疱疹ワクチンへの助成について (山下淳也議員)
3. 公営住宅について (山下淳也議員)
4. 大谷口展望所の現状及び大谷口にある高田の八重桜付近の管理について (藤瀬都子議員)
5. 食の支援について (北沢 聡議員)

午前9時30分 開議

○議長（諸石重信君）

ただいまの出席議員は8名でございます。定足数に達しておりますので、令和7年第1回大町町議会定例会2日目は成立いたしました。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりでございます。議事進行につきましては、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

日程第1 一般質問

○議長（諸石重信君）

日程第1. これより一般質問を行います。

一般質問は、通告書により順次質問を許可いたします。7番三谷議員。

○7番（三谷英史君）

7番三谷でございます。本議会におきましては、今、ふるさと応援寄附金、いわゆるふるさと納税額が大きく減額をしておりますので、その原因及び影響並びにその対策について質問をいたします。

この大幅な減収につきましては、本町にとりまして、深刻かつ大きな問題でありますので、

質問をいたします。

まず1点目、ふるさと応援寄附金が当初予算で8億円計上されておりましたが、昨年12月議会におきまして、これを4億円へと減額補正をされました。また、今議会におきまして頂いておる資料を見ますと、3月補正でもって2億4,000万円を再度減額され1億6,000万円となっております。

そこで、現時点での最終見込額を執行部はどのように見込んでいるのかについてお伺いをいたします。

そして、2点目といたしまして、その大きく減額した原因をどのように分析をされているのか。そしてまた、それに伴う対策についてどのようなことを考えられておるのかについてお伺いをいたします。

原因につきましては一過性のものと見ておられるのか、それとも、今後もこのようなトレンドといたしますか、状況でもって推移していくものと見られておるのか、その辺を含めて御答弁をお願いしたいというふうに思います。

次に、3点目といたしまして、今、ふるさと応援寄附金の返礼品の選定に当たって、それに活用するためにアンテナショップとしてふるさと館が運営をされておりますが、その事業効果をどのように受け止めておられるのかについてお伺いをいたします。

ふるさと館におきましては、ふるさと納税の返礼品に関して、寄附していただく方々がどのような返礼品を好まれているのかということの動向調査と宣伝を行うために、今現在、アンテナショップとしての機能を果たしているというふうな説明でございますけれども、その辺のこと。そしてまた、その相乗効果を図るために、このふるさと館の運営とふるさと納税事務の運営も1事業者に任せておりますが、その辺、事業効果、事業評価についてどのようにお考えになっているのか、どのように検証されているのか、それについてもお伺いをいたします。

昨年3月議会におきまして、昨年3月議会ですから1年前の3月議会、本館のこの運営に当たっては、これまでになく斬新的なものになると期待をしておると答弁をいただいておりますが、これも含めまして、ふるさと館の運営をどのように受け止められておるのかについて質問をいたします。

次に、4点目ですけれども、ふるさと応援寄附の事務処理業務の委託業者についてお伺いをいたします。

このふるさと応援寄附の事務処理の委託業者の委託期間は1年間となっておりますが、もう3月ですので、その1年を過ぎようとしておりますが、来年度の委託業者の選定に当たって募集はされるのかどうか。それとも、これまでどおり一体運営をしていくために、現在の1事業者に再委託をさせるというか、していただくかについてお伺いをいたします。

今回提出されました議会資料によりますと、多分再委託されるものと思われませんが、先ほども申し上げましたとおり、当初予算で8億円計上されていたんですけれども——ですから、私は個人的に考えるんですけれども、当初予算で8億円を計上された当時、執行部としては、ふるさと納税額を9億円ないし10億円ぐらいいけるんじゃないかという想定の下に8億円を計上されたかなというふうに考えております。それが現時点でこれが大幅な減収となっております。こうした現状を踏まえて、あえて再委託されるということであれば、その理由についてお伺いをいたします。

最後に5点目といたしまして、今、ふるさと応援寄附金を主な財源として実施している事業が数多くありますが、まず、現在どのような事業が実施されているのか、幾らか主な事業を挙げていただいて、また、それらの事業に対して、今後どのような影響が及ぶのか、さらに、その対応を今後どうしていくのか。もちろん一過性で終わればいいんですけれども、今後もうこういった状況が続くということであれば、当然事業に影響が及びますから、あくまでもまだ想定の間ではありますけれども、当然リスク管理として考えておくべきだというふうに考えておりますので、その辺を含めての御答弁をいただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

三谷委員の御質問にお答えをいたします。

ふるさと応援寄附金についての御質問ですが、まず、本町の令和6年度のふるさと応援寄附金事業につきましては、今議会で三谷議員のほか早田議員、江口議員、3名の議員から質問がっております。これまでも私も入って何回か説明をしてきたことであり、改めて実情としてお話をさせていただきます。

当事業につきましては、昨年1月だったと思いますが、令和6年度の業者選定をするプロポーザル入札審査の結果、令和6年4月1日から新たな委託業者に変わったことは御案内の

とおりです。ところが、名称は控えますが、前業者と新しく受託した業者の引継ぎが行われる前に、昨年3月でしたけれども、あろうことか、その前業者がふるさと応援寄附金事業に係る大変重要な蓄積データを故意に損壊してしまい、適切な事務引継ぎができなかったことから、これまでの当方の説明では、事務引継時の問題と表現をしていましたけれども、内容については既に議会には説明をしていたと思います。このデータ損壊により、令和6年度のふるさと応援寄附金に影響があったことは我々も承知をしていますが、経緯の詳細、原因究明については専門家をお願いをしており、1年ほどかかると、これも昨年、既に申し上げておりました。このようなことから、現在、公にお答えをする情報は持ち合わせておりません。もうしばらく時間をいただきたいと改めてお願いをしておきたいと思います。議会には、情報を得次第、御報告をさせていただきます。

これまで大町町を応援いただいた皆様、そして町民の皆様には大変御心配をおかけしますが、このような事態に至り大変申し訳なく、心からおわびを申し上げます。

その上でですね、御質問にお答えさせていただきます。

1点目の御質問ですが、本年度、現時点で全国から1,835件、1億3,000万円を超える御寄附をいただいております。データが消去され、インターネット上で大町町の閲覧に支障がある中、大町町を応援していただき、誠にありがたく、御厚情をいただきました全国の皆様に改めて感謝を申し上げます。

次に、2点目の質問ですが、最初に令和6年度のふるさと応援寄附金の予算額を昨年12月補正で8億円から4億円に減額したことについては、既に説明しているとおり、職員の使命感から思い入れが強く、目標を高く設定したということで、通年ベースに近い予算額4億円に補正したと御理解をいただきたいと思います。データ損壊の影響、詳細、原因等につきましては、先ほど申し上げましたとおり分析中で、もうしばらく時間をいただきたいと思っております。ただ、令和5年度と6年度との大きな違いは、まず、前業者がポータルサイト等に関するデータを故意に損壊したことによるインターネット上の閲覧環境への影響と能登半島地震、大雨をはじめ全国各地で大規模な自然災害が発生をし、被災地の支援に注目が集まっているのではと考えていますが、こういう要因に加えて、ふるさと納税制度については総務省の基準が見直され、返礼品の経費率や地場産業が厳格化されたことは、特産品の少ない小さなこの大町町にとっては、令和5年度までに比べてさらに厳しい状況になっていると思っております。

それから、ふるさと館の事業効果の御質問ですが、ふるさと館は管理条例にも定められているとおり、にぎわいと交流の拠点の創出、そして、県内及び町内特産品等の展示販売を行い、農業、商業の活性化に寄与する施設となっており、しっかりと役割を果たしていると思っています。また、大町町のソウルフード、炭坑ゆかりのたろめんや定食などを提供する食堂経営、大町町が進めているワインプロジェクトの紹介、ふるさと納税等を町内外へPRするためのアンテナショップを兼ねた返礼品の直売など、以前と違ったコンセプトで運営をされており、皆さんからいただいた御意見もできるだけ反映し、地元野菜の直売や空揚げ、地鶏などの販売も行っています。

ふるさと納税の返礼品の展示販売では、手に取って確認し購入できるとのことから、県内外から来店し購入されるほか、御希望により取り寄せを行い贈答品として発送するなど、好評を得ております。加えて、その都度、ふるさと納税、町のPR情報などのカタログもお渡しし、ほかにもSNSでも情報発信をするなど、少しでも増収につながるよう努力をいただいております。

新年度には、さらに事業効果を高めるために大町町の観光振興、地域活性化を目的に、開会冒頭申し上げましたが、全国的に知名度がある人気アニメ「ゾンビランドサガ」を活用したアニメツーリズムによるにぎわいの創出や、観光資源として六角川を活用し、カヤック、川遊び、自然観察を楽しむエコツーリズム推進事業を展開するなど、町の認知度やイメージアップのための予算計上、そのほか県内外から大町町を訪れていただく事業を計画しており、ふるさと納税の寄附に結びつくよう努めてまいりたいと思っております。

また、来年度のふるさと応援寄附金管理業務の委託の件でございますが、本町のふるさと納税業務に関しては、令和4年度からプロポーザル方式により厳正に業者選定を行っております。令和6年度のふるさと納税一括管理業務は、最長3年間まで契約の更新ができることになっております。これは、これまでの経験を踏まえて、業務の性質上、他市町の動向等を参考に、単年度契約では事業者自体の経営的事業、運営的な安定性に欠け、実力を発揮することができず、町としましても新たな事業、活発な展開が難しく、安定したふるさと応援寄附金事業は望めないと判断したものです。特に、今年度は貴重なデータ損壊という予期せぬ事態が発生し、新しい事業者には削除されたデータ復旧に迅速に対応してもらったこと、また、ふるさと納税返礼品の地場産業が少ない本町で地元資源を発掘し、町内返礼品事業者を前年度17社から21社へ増加させ、地元経済の活性化を促進したこと、ふるさと納税業務を滞

りなく誠実に遂行し、ふるさと館運営にも新たな視点、民意なども取り入れて、SNS等を使ったPRやイベントを開催するなど、所期の目的を十分に達成したことなどを事業実績として評価し、継続は問題ないと判断したところです。

昨年の事業引継ぎ前の旧業者によるデータ損壊という所業による寄附金への影響は、新しい現在の委託業者には何の落ち度も責任もなく、継続のための評価は今申し上げたとおりでございます。

最後に、ふるさと応援寄附金を財源としている事業についてですが、本年度は54事業に活用をさせていただいております。主なものは、赤ちゃんの出生祝金や子供たちの給食費無償化補助金、高齢者への敬老祝金や町内外の皆さんに楽しみにしていただいている納涼まつり花火の打ち上げ、世代間交流のための地域の絆づくり事業など多種多様で、さらに、新年度は新たな事業も提案させていただいております。令和7年度、総額で2億6,000万円余りとなっています。うち継続的に行う事業は大体40事業程度であり、約1億3,000万円となっています。

御心配の事業への影響ですが、私が施策として取り組んでいる事業の財源は、将来の寄附金を見込んでの皮算用ではなく、これまでに応援いただいた寄附金や積み上げた基金の浄財を使わせていただいております。既に継続できるよう、将来的な財源を確保した上で継続すべきは継続する事業の推進を考えておりますので、御安心いただきますようお願いをし、そしてまた、町民の皆様が不安な思いをされないよう御配慮いただければ幸いです。

○議長（諸石重信君）

三谷議員。

○7番（三谷英史君）

ふるさと応援寄附金を財源としている事業につきましては、今現在、十分基金等で財源確保されておるから、今後も引き続き事業として実施可能だということでは何ら影響がないという——それは町民の皆さん方は安心されるというふうに思います。

1点だけ、ふるさと館についての町長の評価と、そしてまた、私が漏れ聞く町民の評価、もちろん執行部というか、町長側としてはアンテナショップとして機能を任せているんだということですけど、アンテナショップにしる、町をPRするにしる何にしる、集客ですね、やはり多くの人に来ていただいて、展示物、そして展示情報も見ていただくということがやっぱり広報、PRだと思うんですね。

それで、今日もチラシを見せていただいたんですけども、3月29日に何かイベントをやられるということですけど、ああいうイベントをやられるときには結構人は集まっているんですけども、それ以外のときに、あんまり私も中に入って云々じゃないですけども、お客さんの車の駐車台数を見て、ちょっと何か少ないなど。そして、私が漏れ聞くには、あんまりお客が入っていないというようなのを大分聞きますからですね。だから、そういうことから何かもう少し、確かに新しい発想、視点でもって、あれが斬新的な運営なのかよく私は理解できませんけれども、何か人を集める工夫というか、もう一工夫あってしかるべきだというふうに思っております。それを含めての検討をすべきじゃないかというふうに考えております。御感想があれば、答弁いただきたいと思っております。

それと、ふるさと応援寄附金、今後どうなるかという、執行部側はデータが何か削除されたとか破壊された、それが原因だということでの認識ですけど、ちょっと私は全国的にどうかというあれがあるんですよ。ふるさと納税そのものが、何というかな、いわゆるトレンドとして下方、今回、大町は下がっていますから、これ以上下がるということはないんですけども、こういった低水準が続いていくんじゃないかというふうに、私は専門家でも何でもないんですけども、新聞かれこれのマスコミ情報から何かそんな感じを受けております。そういうことも含めて、今やっている事業に影響はないということですけども、そういうことでもって、環境がそうであるのであれば、増やすための一工夫、汗を流すとかですね、やっぱりそういうふうな努力が必要になるかというふうに考えております。これは感想ですけども、何か御答弁があればというふうに思っています。

以上ですけども。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

ふるさと館につきましてはですね、ふるさと館の目的、役割があるわけで、それは条例にも定義されておりますので、その分については役割は十分に果たしているというふうに思っております。

今までの情報プラザの役割、そして、ふるさと館の役割ということを比較した上で判断が必要かなというふうに思っております。一足飛びにあそこにどんどん集客できるような事業ができるかどうかというのはちょっと難しいかなと思います。徐々にいろんなアイデアを

出してもらって運営をしていきたいと思えます。

それから、全国的にこのふるさと納税がですね、全体的には上がっているんですよね。ただ、どこもいろんなアイデアを出して、特に返礼品をいろんな形で出しておられると思えます。大町町は、返礼品の数はそこそこありますけれども、特産品としてはちょっと少ないということもあってですね、いろんな形で付加価値をつけて新しい返礼品を考えていかなければならないと思っておりますし、そしてまた、返礼品に参入していただいている業者さんについても、本当に一生懸命協力をいただいております。さらにいろんな返礼品ができればいいと思えますけれども、今御存じのとおり、ワインとかも考えておりますので、その辺も今後返礼品に加えていければ、また違った大町町の魅力が出てくるんじゃないかと思えます。

今、データが損壊されたということで、それは10年間の積み上げたデータですので、それを一遍にまた積み上げるというのはできませんので、徐々に一步一步進めていきたい、努力をしていきたいと思っておりますので、よろしく御理解をお願いしたいというふうに思えます。

○議長（諸石重信君）

三谷議員。

○7番（三谷英史君）

分かりました。

質問を終わります。

○議長（諸石重信君）

続きまして、5番山下議員。

○5番（山下淳也君）

おはようございます。5番山下です。議長より登壇の許可をいただきましたので、これより一般質問に移らせていただきたいと思います。

今回の一般質問につきましては、2つのことを質問させていただきます。1つは带状疱疹ワクチンへの助成について、そして、2つ目に公営住宅についての2つを質問させていただきます。

まず1つ目に、带状疱疹ワクチンへの助成について質問させていただきます。

この質問につきましては、令和5年12月議会でも一般質問でさせていただきました。そのときの答弁といたしまして、国の厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会において、予防接

種法に基づくワクチンに位置づけられるか、現時点では国や県の動向に注視していきたいというお答えでありました。いよいよ今年4月1日より带状疱疹ワクチンの定期接種となり、接種費用の一部が公費で助成されます。しかしながら、対象年齢が65歳の方、また65歳を超える方につきましては、5年間の経過措置として5歳年齢ごとにととなっております。しかしながら、発症リスクが高まるとされる50歳から64歳の方に対しましては助成がありません。

そこで、50歳から64歳の現役世代の方に対して、町独自の助成を考えられてはいかがかと思ひ、質問させていただきます。町のお考えをお聞かせください。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

山下議員の御質問にお答えをいたします。

带状疱疹についての御質問ですが、令和5年12月に続いての御提案ということですね、思ひというものは伝わっております。

議員が言われているように、带状疱疹は加齢などによる免疫機能の低下が発症の原因ということで、50代から発症率が高くなり、70代、80代にピークを迎えるとデータに示されていますが、過労やストレスが引き金となり、若い人にも発症することもあるようです。带状疱疹の治療は抗ウイルス薬等を用い、早期に治療を開始するほど効果が期待でき、症状を自覚したら早めに受診する必要がある、通常は再発することはまれということのようです。

御提案の予防ワクチンについては、前回の御質問に対する答弁で、国の厚生科学審議会分科会における結論を注視すると申し上げておりました。議員御承知のとおり、昨年12月、国の方針が示され、带状疱疹罹患率は70代をピークに80歳までに3人に1人が発症するとされ、今年4月から65歳以上の方へ带状疱疹ワクチンの定期接種化を開始することが承認されたところです。

審議会を含め専門家の意見としては、ワクチン接種を70歳とすると遅く、ワクチン有効性の持続期間を考慮すると、早過ぎても不適切ということもあり、科学的知見の観点から、罹患や発症等の疾病負荷が70歳頃に増加することや、ワクチンの有効性の持続期間等を考慮すると、対象年齢については70歳頃に十分なワクチン効果が発揮できるようタイミングを図ることから、65歳以上という年齢が設定をされています。定期接種対象者には、4月以降、準備が出来次第、定期接種の御案内、予診票を発送し、接種希望者は県内の予防接種実

施医療機関に接種の予約を行い、その後、接種する流れとなり、定期接種対象者については3割程度の自己負担で接種できるようになります。ただし、65歳以上と言いながらも、既に65歳を超えている方については、経過措置として5歳年齢ごと、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳以上が対象となり、この年齢に該当しない方は、残念ながら数年間待たなければならないということになります。

このようなことから、大町町では国の方針、知見を尊重し、65歳を超えた66歳以上の方を対象に定期接種及び経過措置の年齢を待たずに接種できるよう町独自のワクチン接種補助制度を創設し、4月から助成をしたいと考えています。

ただ、よく考えていただきたいのが、ちょっと難しいんですけども、さきに述べましたとおり、带状疱疹ワクチンは2種類ありますが、国の制度を利用される場合は、いずれも個人負担は3割となりますが、町の制度を利用される場合は、66歳以上なら国が設定する年齢を待たなくて済み、発症予防、重症化予防に有効ではありありますが、助成額としては、生ワクチンが接種回数1回、助成金額は5千円、有効性持続期間が大体5年から7年、組換えワクチンは接種回数が2回必要で、助成金額は1回1万円の2回となり、有効性持続期間は大体10年とされています。

接種費用の助成制度は、国、町、どちらかのワクチンで生涯一度限りとなります。効果が切れて、後で再度接種するには助成金はないということになりますので、御承知おきいただきたいと思います。

さらなる詳細につきましては、子育て健康課のほうにお伺いいただけたらというふうに思います。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

国の見解として、確かに70歳をピークということがデータ上出ております。しかしながら、発症リスクが高まるというのは、あくまでも50歳からであります。50歳から70歳の伸び率も40歳から50歳との伸び率とほぼ変わりなく伸びております。

そこで、現役世代である50歳から64歳という方々に対しての不安を取り除く意味でも、発症しますと1か月ほど治療期間がかかると思います。現役世代、生産に関しましても影響が出てきますので、安心・安全という部分でも50歳から64歳という方への補助を検討されると

いうことは、今後、考えはございませんでしょうか。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

この件についてはですね、本当に熟慮に熟慮を重ねて、今回、66歳以上の方に対して、接種を受けられないちょうどはさまの年齢の方に助成をしようということで、今回、新年度予算に提案させていただいております。

先ほども申し上げましたけれども、なかなかいつ受けるかと、これは本当に30代の方も40代の方もなる可能性はあります。罹患した場合は再発症するのはまれということではありますけれども、ワクチンを接種して予防をしたとしても、その後、体力が落ちた年齢になれば発症する、予防の効果が切れてその後に発症する、そのときに体力がどうか、ストレスがどうかという形になろうかと思うんですけれども、どこでワクチンを受けるかというのは非常に難しい判断になろうかと思えます。

そういうことですね、早く打たせるようなことをすれば一番体がきついときにどうなのかというのもあるって、いろんな意見を聞きながら、65歳以上というのは国の知見で出ておりますので、それを参考にし、尊重して、とにかくそれ以上の方に対しての助成を今回考えたいということで新年度に提案をしたということですので、いろいろな考え方はありますが、そういう形で御理解をお願いしたいというふうに思います。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

町の考えは大体分かりました。

そこで、今回、予算も提案されておりますワクチンの助成につきまして、より詳しく子育て・健康課長のほうから御説明をお願いいたします。

○議長（諸石重信君）

子育て・健康課長。

○子育て・健康課長（前山正生君）

ただいま山下議員から御質問された件についてお答えします。

町独自のワクチン接種補助制度の接種までの流れについて説明いたします。

まず、子育て・健康課窓口で申請書を記入していただきまして、予診票、予防接種済証をお渡しいたします。その後に町内医療機関に予約を行っていただきまして、接種をするという形になります。接種料金につきましては、接種料金から助成金を引いた額を医療機関に支払うとなっております。ちなみに、生ワクチンでしたら経費が8,500円かかっておりますので、大体個人負担は3,500円程度となっております。また、組換えワクチンにつきましても費用が2万2千円程度となっておりますので、1回の自己負担が1万2千円程度となっております。

以上です。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

この補助を受ける場合というか、補助は1度きりということで、例えば、実費で事前にワクチン接種をしていましたということで、期間が5年ないし7年の場合、5年を経過しているので、今度は補助を受けて接種をしたいという方は、補助は可能でしょうか。

○議長（諸石重信君）

子育て・健康課長。

○子育て・健康課長（前山正生君）

山下議員の御質問にお答えいたします。

定期接種についても、町の助成につきましてもどちらか1回だけということになりますので、1回助成をしたら、期間がたっても助成はできません。

○議長（諸石重信君）

実費で接種して、助成は使っていいのかという質問でした。

○子育て・健康課長（前山正生君）

すみません。実費で接種した場合、その後に町の補助とか定期接種を受ける場合、チェック項目として、接種……

○議長（諸石重信君）

助成対象は1回限りということ……

○子育て・健康課長（前山正生君）

ああ、そうですね。すみません、助成回数は1回だけとなりますので……

○議長（諸石重信君）

自己負担の場合は関係ないですね。

○子育て・健康課長（前山正生君）

そうですね。自己負担は……

○議長（諸石重信君）

カウントしませんということ。

○議長（諸石重信君）

課長、お答えをお願いします。自己負担はカウントしないということですか。

○子育て・健康課長（前山正生君）

自己負担はカウントしないということになります。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

そしたら、例えば、5歳のときに実費で受けていて、有効期限が切れて、65歳のときに補助を受けたいといったら助成は受けられるということですね——分かりました。

今後とも、より町民の健康、安心・安全について配慮しながら、様々な助成なり何なり、安心を勝ち取るために町のほうの政策をよろしく願いいたします。

これで1つ目の質問を終了させていただきます。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

続きまして、2つ目の質問に移りたいと思います。

2つ目に公営住宅について。

町内の公営住宅は5か所あり、古いところで築60年以上、また、新しいところでも築40年以上が経過しており、老朽化が進んでおる状況です。公営住宅の必要性、重要性は今なお大きいものがあると思います。しかしながら、これまでの公営住宅の役割や目的が現在においてのニーズと社会状況と乖離しているように思われます。これらのことを踏まえて、3つの質問をいたします。

1つ目に、現在の空室の状況と入居希望者状況はどうなっているのか、2つ目に、入居条

件はどのように現在なっているのか、そして3つ目にですね、今後、建て替え、改築を含めたところでどのように町は考えられているのか、これら3つのことについて質問させていただきます。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（吉村秀彦君）

お答えさせていただきます。

現在の空き室、空き部屋と入居希望状況はということです。現在、杉谷団地、千場団地、泉団地につきましては、老朽化が進んでいるなどの理由から政策空き家対策を行っており、原則入居募集の対象としておりません。京ノ尾及び浦川内団地につきましては、年1回から2回、入居募集の広告や、空き室がある場合には随時入居の受付対応も行っているところがあります。

現在の空き室の状況につきましては、京ノ尾団地が54戸中38戸の入居、6年度中に2戸が退去、2戸が入居ということで、空き室については16戸ございます。浦川内団地が48戸中47戸入居をされております。令和6年度中に2戸が入居されて、1戸が退去されているということで、空き室は1戸となっております。

令和6年度中は、入居に関する相談が8件ありまして、そのうち、入居手続を行った方が4世帯ということになっております。

続きまして、入居条件はどのようになっているかということでございます。

原則として、単身世帯ではないこと、住宅困窮者であること、前年度所得の1か月当たりの金額が15万8千円以下であること、税金等の滞納がないこと、入居名義人と同程度以上の収入がある連帯保証人があることなどになっております。

次に、今後、建て替え、改築を含めてどのように考えているのかという御質問でございます。

町では、平成29年2月に大町町公営住宅等長寿命化計画を策定し、平成29年度から令和8年度までの10年間の計画期間として、公営住宅の長寿命化や計画的な改善などの事業に取り組んでいるところです。

このうち、まずは杉谷団地につきましては、昨年度末に東側エリア簡易耐火構造平屋6棟分ですね、12棟から17棟にお住まいの方の御協力により、西側エリアの簡易耐火構造平屋10棟

ですね、2棟から11棟までの移転が完了いたしました。今後、東側エリアの簡易耐火構造平屋6棟分ですね、12棟から17棟を解体し、建て替えを行えるよう、今年度到大町町公営住宅等長寿命化計画の見直しを行ったところでございます。

あわせて、杉谷団地ですね、先ほどの12棟から17棟の建て替えを計画するに当たり、大町町杉谷団地建て替え基本計画を策定することとしております。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

ただいまの説明ですね、2番目の入居条件のところからまずちょっと質問したいと思います。

原則単身世帯は除くということでありました。その条件は知ってはおりましたが、現在のニーズとしてですね、単身の世帯の希望する方も多々増えているものだと思います。また、高齢者や障害者といった方に対しての福祉的要素での住宅の提供等というものは、町のほうでの設定はございますでしょうか。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（吉村秀彦君）

入居条件で単身の世帯が入居できないかというところの御質問かと思えます。

大町町営住宅設置及び管理条例の中に、基本的には、現に同居し、または同居しようとする親族、結婚されているとかですね、そういった方とか、子供がおられるという方は入れますよということになっております。

条例の規則の中ではですね、60歳以上とか障害者の方であれば単身でもというような規則はありますが、今の条例の中では、占有面積が55平米以下の規格の住宅には単身でも入れますよということになってはいますが、その条件に合うのが杉谷団地、千場団地、泉団地というところでございますので、その3団地につきましては、政策空き家対策により、現在入っていないということで、原則的には今は入れられないということになっております。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

55平米以下では単身でもオーケーということでもあります。

現在、町営杉谷団地のほうは今後解体して新しくというような話になるかと思いますが、建て替えをする場合、どのような規格で——現在、浦川内団地や京ノ尾団地等は多分3DKの基準で建てられていると思いますけれども、今後、建てられるに当たってはどのような考えであるか、お聞かせください。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（吉村秀彦君）

お答えします。

杉谷団地につきましてはですね、今のところ、先ほど申し上げました建て替えの基本計画を今から策定するというので、内容の細かなところは今後計画の中で策定をしていくということでございますけど、考え方としては、少子高齢化、人口減少が急速に進展していく中、町営住宅においても入居者の高齢化とか、それに伴う認知機能の低下とか、築年数経過により老朽化が進んでいる状況でありますので、バリアフリーとか居住性の課題を有しているところでございますので、これらの背景を踏まえて、快適性向上だけでなく、幅広い年代の入居受入れができるような形で、今後、快適で安心・安全に暮らせる団地への建て替えを考えているところでございます。高齢者にも優しい団地環境が形成できるよう、計画の中で検討をしていきたいと思っております。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

今後のことではありますけれども、最近よく町民の方から御相談を受ける中で、現在、持家を持っている、しかしながら、高齢化が進み、そして、自分一人で大きな家に住むのも管理、維持していくのが大変だということで、自分の持家を処分して、その後、公営住宅のほうに移りたいというような相談も受けます。そのような場合ですね、可能なのかどうなのか、お願いいたします。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（吉村秀彦君）

個別の案件になるかと思いますので、ここでどうなりますかというのは答えづらいところでございますので、要相談ということでお願いしたいと思えます。

以上です。

○議長（諸石重信君）

山下議員。

○5番（山下淳也君）

失礼いたしました。また個別で御相談させていただきます。

計画を立てられるということですので、今後、経過を見ながらまた質問させていただきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

これで終わります。

○議長（諸石重信君）

ここで暫時休憩いたします。

午前10時30分 休憩

午前10時40分 再開

○議長（諸石重信君）

議会を再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を続行いたします。8番藤瀬議員。

○8番（藤瀬都子君）

8番藤瀬都子です。私は大谷口の展望所の現状について、そして、高田の八重桜一帯の管理についてということで質問いたします。

大町ふるさと館前の国道34号に陸橋がかかっています。その陸橋の東と西にある標識に「鬼ノ鼻山」「大谷口展望所」「大町町公民館」と表示されている中で、大谷口展望所に興味があって現地に出かけましたが、眺めはいいのですが、周りの管理状況が悪く、期待外れでした。現地には掲示板や鉄棒もありましたが、その掲示板の地図に赤い印で「大谷口展望所」と表示されています。そして、「聖岳山頂の展望台とはまた違った景色が楽しめます。サクラやツツジ、藤棚など花木があり、散策途中の休憩所としても最適です。」と記されていますが、表現とはかけ離れていて、期待外れでした。時折、車が止まって眼下を眺めておられる方もありますので、この場所一帯を年に数回手入れをし、ベンチを置いてミニ公園のようになればと思えます。掲示板にも表現してある展望所の紹介と余りにも違いますので、

一度現地を確認されたら理解されるだろうと思いますが、検討をお願いします。

次に、大谷口に高田の八重桜という桜がありますが、以前「広報おおまち」の表紙にも掲載された桜の場所です。この桜の木の周りは草刈りができていますが、行政で実施されているのか、お尋ねします。

以前は大谷口の有志の方が一帯を刈り払い機できれいにされておりました。だが、最近では行政で草刈りをされておられるのか、お尋ねいたします。もし行政でなければ、対応すべきではないでしょうか。

以上です。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（吉村秀彦君）

御質問にお答えいたします。

まず、大谷口展望所につきましては、道路管理の一環として町道大谷口線伐採業務において、年に1度、町道側へ繁茂している草や雑木を伐採しております。あわせて、側溝清掃業務において、側溝にたまっている土砂や枯れ葉の撤去を行っています。また、台風や大雨後の道路パトロールや通報により、倒木などで通行に支障を来す場合があった際には緊急的に撤去作業を行っておりますが、大谷口展望所周辺の町有地については、現在のところ、草や雑木の伐採等は行っておりません。

大谷口展望所の再整備についてとなりますが、現時点では大規模な再整備というのは予定しておりませんが、基本的な維持管理を重点に置きながら皆様方の意見を伺い、まずは定期的な除草作業を増やし、環境整備を行うことで御理解をお願いいたします。

また、高田の八重桜一帯の部分ですけど、現地の一角は町有地となっておりますが、これは佐賀県によるふるさと農道緊急整備事業による道路用地の買収の際に残った残地を、地権者の要望もあり、町が取得したものであります。八重桜につきましては、以前、当地に居住されていた方が植えられたものと思われ、近隣の方の自主的な行為によって草払い等により管理されているようだと聞いております。

こういった経緯を踏まえますと、町有地ではありますが、さらに財源を使用して公園等を増やし、管理していくことは難しいと考えております。

○議長（諸石重信君）

藤瀬議員。

○8番（藤瀬都子君）

私も国道に表示があつてからどれくらいたっているのか分かりませんが、そうですね、30年以上前になりますでしょうか、大谷口展望台のところは、歩こう会という感じで、大谷口、泉町、花宮、あそこら辺の方々が20名はいらっしゃったと思います、登られてきれいに手入れをされてですね、毎日のように登っておられましたので、そこでお茶を飲んだりとか何かされておりました。本当にそのときにはきれいにして、そして、あずまやみたいな八角形の屋根がついた建物までそこにありました。高砂からもなんですが、ずっと何十年とそこで初日の出を見るというようなことをやっておりましたので、私たちもそのときにはその管理も少しは手伝っておりました。だけど、今行きますと、本当に草が生えておりましたので、鉄棒があるところはとても鉄棒がされないんですよ。

そういったことを考えますと、もう少し——今答弁では1年に1回と言われておりました。でも、そうじゃなくて、あそこをミニ公園のような形に持っていけないのかと一つ思いました。

それと、今回、大町町第5次総合計画の中で地域おこし協力隊事業がありまして、特産品開発と観光PRということで予算も上がっております。そして、地域おこし協力隊事業の中で、ワインプロジェクトが大谷口のほうで始まっております。それと関連しまして、そこから大谷口の展望台までをもう少しきれいにできないか。今、確かにササが道のほうに倒れかかったようになっておりましたので、そういったところも含めたところでもう少し何か方法がございましたら、お願いいたします。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（吉村秀彦君）

お答えさせていただきます。

先ほど議員のほうから言われたように、昔は有志の方で整備をされていたというところがございます。でありますけど、今のところ、先ほども答弁したようにですね、あそこの展望所のところは道路敷ということもありまして、道路の伐採業務で年に一度させていただいております。

先ほど、定期的な除草の回数とか環境整備を行うということで答弁させていただきました

ので、その辺で整備をしていきたいと思っておりますので、対応をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（諸石重信君）

藤瀬議員。

○8番（藤瀬都子君）

ある集まりがあったときなんですけれども、大谷口の展望台に行ったばってん、草の生えて何もかんもじゃなかったというような話もお聞きいたしました。やっぱり私たちとしては、せつかく標識にも載っているわけですよね。だから、もう少し大町町のほうで手入れをしていくべきではないのかと思います。

それと、溝のほうもごみとかなんとかを拾っていると言われましたけれども、ちょうどカーブになったところら辺がですね、本当に何というんでしょう、雨で流されてきたんだなというような、ちょっと草の絡んだようなのもありました。あそこの大谷口に登るところの道、草が茂っている夏は自分が通るときに困りますので、うちのほうでも草を刈っておりますが、枯れ葉とか木なんか道の両方に、1メートル以上道のほうにかかっておりますので、車は本当に真ん中しか通れない、離合するにしてもちょっと大変な状況なんですよね。だから、もう少しそっちのほうにもお金をかけて道路のほうを——とにかく大谷口のほうでワイプロジェクトをして、これから山の斜面のほうも活性化するというようなことを前にも町長は言われておりましたので、そここのところでもう一度頑張って、年に1回じゃなくてやっていただけないか、お願いいたします。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

大谷口の展望所のことについてですけれども、あそこは昔からですね、舗装する前から道があったときに景観がいいということで、展望のための場所として、そして、大きな桜の木がありまして、非常によいところだというふうに思います。

今は道路の管理の中でですね、草刈りも、そして側溝の清掃も行っていると思いますけれども、大町町の道の管理というのは年に一、二回草刈りをしているところで、大谷口線として同じような管理の仕方をしております。ただ、あそこは展望所としての場所だと思いますの

で、公園化というのは少し公衆性とか安全性とかということを考えてときにちょっと厳しいのかなというふうに思います。

そして、今、議員が言われたように、あそこの展望所、公園はですね、登ろう会という組織の方々が健康づくりとか、生きがいづくりとか、そして景観づくりということで手がけておられました。そのときのことを看板には書いてあると思います。その看板はですね、県の事業で遊歩道を造ったり、水源涵養のための森林整備をしたり、それが県でされていますけれども、そのときに看板を建てられて、ちょうどそのときに登ろう会の方々が整備をされておりましたので、その状態を示された、記載されたのかなと思います。

そういうことで、あの辺は森林ですもんね。ですので、木は成長します。景観がですね、下の木が高く成長しておりますので、その辺のところをどのようにできるか、景観の部分についてはちょっと考えたいと思います。そして、草については道路整備の中で、そこに立ち寄りやすいようにできればなと思いますので、しばらく時間をいただきたいというふうに思います。

○議長（諸石重信君）

藤瀬議員。

○8番（藤瀬都子君）

登ろう会の方たちがされていて、そのときに、ちょうど展望台に上がるちょっと手前のカーブのところなんですけど、そこに梅の木を植えられているんですよね。これもまた大きくなっています。あそこで梅の木を見たことはなかねとか思いながら、今回の質問でした。

ただ、そこに幅1メートルまであるでしょうかね、そこから登るようになっているんですけども、ずっと歩いて登ってくると、そこも草が茂っています。歩いて登る方もいらっしやいますので、そこだけはちょっと草を払ってやっていただけないかなと思いますけれども。

とにかく、せっかく国道34号に看板まで出ておりましたので、今回はそれで質問いたしました。何とぞよろしく願いいたします。

これで質問を終わります。

○議長（諸石重信君）

続きまして、3番北沢議員。

○3番（北沢 聡君）

3番北沢聡です。議長より登壇の御許可をいただきましたので、今より質問をさせていただきます。

食の支援について質問させていただきます。

なお、すみません、これは2つの課にまたがった質問になりますので、よろしく願いいたします。

まず、学校給食についてお伺いします。

学校給食は、育ち盛りの児童にとって大変重要と考えます。基準に沿って行われていると思いますが、文部科学省の学校給食摂取基準には「適用に当たっては、児童生徒の個々の健康及び生活活動等の実態並びに地域の実情等に十分配慮し、弾力的に運用すること。」とあります。現状、大町町の児童に対し、十分な配慮がなされているのでしょうか。また、食べ盛りの児童たちにとって、量などは適正なのでしょうか。

また、昨年から災害支援団体が町と連携し、ひとり親世帯を対象としたコミュニティフリッジを展開されておりますが、運用状況は町のほうでは把握をされているのでしょうか。

学校給食の無償化と公共冷蔵庫と言われるひとり親を対象としたコミュニティフリッジはほかの市町にはない組合せであり、子育て世代の方に周知を図るべきと考えていますが、現状はどうなっているのでしょうか。

基本的には団体のほうでされるべきとは思いますが、町の魅力発信にもつながると思いますので、町でも力を入れて発信してみてもどうでしょうか、お伺いいたします。

○議長（諸石重信君）

まず、教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（井手勝也君）

学校給食につきまして、北沢議員の御質問にお答えいたします。

学校給食は、成長期にある児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ児童・生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすもので、学校給食法に基づき実施しております。

給食のエネルギー量等については、文部科学省の摂取基準を参考に計画、実施しています。学校給食摂取基準は、厚生労働省が策定した日本人の食事摂取基準を参考にしておりまして、その考えを踏まえながら関連する各種調査のデータを勘案し、児童・生徒の健康の増進及び食育の推進を図るために望ましい栄養量を示したものです。対象となる児童・生徒の基本

データをEER算出シートに正しく入力すれば、個人並びに学年・クラス単位における推定エネルギー必要量や給与栄養目標量を容易に求めることができるようになっております。適用に当たっては、個々の健康及び生活活動等の実態並びに地域の実情等に十分配慮し、弾力的に適用することとなっています。算出方法は、基礎代謝基準値掛け体重掛け身体活動レベル不足エネルギー蓄積量となっています。毎年、児童・生徒の身体測定の結果から入力し、その時点における望ましい給与エネルギー量並びに給与栄養目標量を設定するようになっております。

児童・生徒の身体状況を的確に把握し、給食計画に反映させることは学校給食法の第1条に示されている、1、児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであること、2、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであること、3、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施、4、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進にとって欠かすことができない対応です。この学校給食摂取基準に準じて大町町給食センターでは対応しており、給食では、摂取量が不足していると推測される栄養素を補えるよう、また、満遍なく栄養が取れるよう可能な範囲で工夫し、栄養バランスのよいメニューの給食を心がけております。

給食の実態ですが、季節や時期においても児童・生徒の食欲は変化していきます。給食の時間には教室で当番が教員の指導の下、主食や副食等を均等につぎ分け、配ります。その後、食べ切れない児童・生徒は、食べることができる分を残し食缶等に戻します。次に、もう少し食べたい人が並んで自分の食器につぎ足します。個数等に限定がある場合には、じゃんけん等をして皆が納得する形で配分したりもします。

特に、足りないという児童・生徒を見ていると、意外によくかんでいない場合があります。通常、30回かんで飲み込みましよう指導はしておりますが、よくかまらずに飲み込んでいる児童・生徒もおります。よくかんで食べていれば次第に満腹感が湧いてきますが、慌てて食べると満腹感が湧いてくる前に食事が終わってしまい、量が足りないと感じることもあります。

給食は食育も含まれますので、健康な体をつくる上で、また、安全な給食ということからもよくかむ指導も改めて必要であると考えております。

○議長（諸石重信君）

子育て・健康課長。

○子育て・健康課長（前山正生君）

北沢議員の御質問にお答えいたします。

次に、コミュニティフリッジに関する質問ですが、大町町と包括連携協定を締結している災害支援団体が昨年8月末に大町町を拠点とし、フードトラック「Foo Bour」を活用した事業を開始され、町報、ホームページ等で周知しております。また、新聞でも掲載され、関心が高く、問合せも多くありますが、町では運用状況について把握はしておりません。

この事業は、ひとり親世帯の方が時間や人目を気にせず、365日24時間、都合がよいときに無料で食料品、日用品の提供を受け、継続して支援していくものです。

大町町総合福祉保健センター美郷の北側駐車場内に駐車している黄色いキッチンカーが活動拠点となっております。

町内外への周知、発信も必要と思いますが、児童扶養手当を受給しているひとり親家庭の世帯を対象としているため、利用されている家庭への配慮も必要と考えております。新たに対象となられた世帯へは、子育て健康課職員が事業を説明し、利用していただけるよう推奨しており、利用世帯は増加しており、支援に対し感謝されております。

また、同災害支援団体が今年1月からフードドライブにも取り組まれておられます。フードドライブとは、家庭や会社で食べ切れずに余っている未開封の食品や未使用の日用品を無償で御提供いただき、支援を必要としている方に給付する仕組みで、大町町総合福祉保健センター美郷と大町公民館で受付をしております。

○議長（諸石重信君）

北沢議員。

○3番（北沢 聡君）

まず、給食のほうから。大変充実した指導をされていると感じました。ありがとうございます。

それで、量についても季節ごとに配分をされているということですが、実際、児童のほうから話を聞く、意見を聞くというようなことはあるのでしょうか、お伺いします。

○議長（諸石重信君）

教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（井手勝也君）

御質問にお答えいたします。

以前、給食の量につきまして、児童・生徒のほうに尋ねてみたことがございますけれども、少ないと答えた児童・生徒の割合はおおよそ1割でした。

先ほども申しましたように、季節や時期によって児童・生徒の食欲が変化していきますので、再度、学校のほうにも確認をしていきたいというふうに考えております。

○議長（諸石重信君）

北沢議員。

○3番（北沢 聡君）

ありがとうございます。児童に対して常にそういうふうな気配りをさせていただいて、柔軟な運用を心がけていただきたいと思います。

給食についてはこれで終わります。

○議長（諸石重信君）

北沢議員。

○3番（北沢 聡君）

続きまして、コミュニティフリッジの分ですけれども、把握はされていないということですけれども、利用されている利用者の数とか、その辺も分からないでしょうか、ちょっとお伺いします。

○議長（諸石重信君）

子育て・健康課長。

○子育て・健康課長（前山正生君）

御質問された件についてお答えいたします。

昨年8月の事業開始時は15世帯でしたが、現在は24世帯が利用されております。

○議長（諸石重信君）

北沢議員。

○3番（北沢 聡君）

ありがとうございます。数が増えているということは、やっぱり社会的に必要とされているということだと思います。

事業者様のほうでももちろんPRされていかれると思いますが、町でもホームページの掲載なども続けていっていただいて、なかなかちょっと性格的にあまりPRしづらい点もあらわれるかと思いますが、その点、どうか今後も続けていっていただければと思います。

先ほど質問でも申し上げたとおり、この組合せというのが町にとっては大変魅力につながるのだと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

では、以上で質問を終わります。

○議長（諸石重信君）

以上で本日の日程は終了いたしました。よって、本日の会議はこれにて延会いたします。
議事進行についての御協力、誠にありがとうございました。

午前11時11分 延会